

堺行基の会 会報

第41号 平成27年9月27日

平成27年4月5日 史跡巡りの記録

紀州海南市、有田市、田辺市方面を訪ねて

川口 勝

朝起きるとあいにくの雨模様であった。今日の行く先和歌山方面も、予報は雨もしくは曇りとなっている。お天気ばかりはどうにもならないので、せめて小雨であってほしいと願うばかりである。

いつものJR三国ヶ丘駅のバス乗車場に行くと、きょうは中型バスが止まっていた。参加者は少ないのだろうと思った。しかし定刻に出発する時には、ほぼ席はうまっていた。中型なので310号線を少し前に行き、すぐUターンして素早く中央環状線に入ることができた。大浜から阪神高速湾岸線に入り和歌山へ向かった。

発行

堺行基の会

事務所

堺市中区毛穴町462-8

吉田方

TEL

072-271-597

最初の見学地、海南市の中野酒造に着いた。車中降っていた雨も止んだので傘を持たずにバスを出た。すぐに会社従業員と思われるガイドさんが近寄り案内してくれた。



中野酒造



中野酒造で試飲会

この会社は初め「長久」「紀伊国屋文左衛門」銘柄の日本酒の醸造から始まったが、近年は梅酒、焼酎、ワイン、シロップなどの製造にすすみ、中でも紀州の梅が有名になった最近では、梅酒の製造量が多くなったようだ。

まず目に付いたのは用途によって違う酒米である。品種、産地、精米度を表示し見本を並べてある。蔵には酒好きな人

が毎日飲んでも、100年間飲める量が入っているという、巨大なタンクが林立している。

この会社の最高級大吟醸酒は、酒米を35%まで磨きあげ(精米)使用しているという。もちろん価格も高いのでこれは有料での試飲であった。

工場に隣接している三千坪の庭園は昭和三年の築造で見事な回遊式日本庭園であった。昭和三年ごろは高度経済成長が始まりつつある時期で、日本酒の需要が多く製造も盛んな時期であった。この会社はこのころ大きくなったのであるうか。

昭和三三年ごろの米100%の日本酒は高価だったので安い酒の需要が多く、このためアルコールを添加した日本酒、合成酒の製造が多かった。このころある集会で合成酒を出され、頭痛悪寒の二日酔に苦しんだ記憶がある。

庭園は雨上がりであるが、歩道は最近舗装したとかで水溜まりもなく歩きよい。桜もまだ残っていて池越しにきれいに觀賞できた。緋鯉を入れた池は高低差を

つけ水を流している。最後に直売所に入り、多種多様な酒を試飲したり土産物を買ったりした。

バスに戻り昼食場所の鮎茶屋に入り、太刀魚膳の食事を頂いた。有田市は太刀魚の漁獲高が日本一だという。

昼食後、雲雀山得生寺(別名、中将姫寺・浄土寺)に向かった。このお寺は聖武天皇



鮎茶屋



鮎茶屋 太刀魚膳

のとき、右大臣藤原豊成の娘「中将姫」が継母により、雲雀山に捨てられた遭難の旧跡で、姫の家士・伊藤春時が創建したという。

承平(930年代)の頃、光勝大徳が中興し、「安養院」の号を改め、「雲雀山・得生寺」とした。行基作とされる阿弥陀如来像が安置してある。

住職は法事で外出しており説明はなか

った。会長の説明によると、行基が創建したりまた仏像を制作したと伝承する寺院は全国に800寺近くあり、この寺はそうした行基伝承寺院の一つであるという。

行基伝承は歴史的事実ではないが、無視できない。行基を尊敬する僧侶はいつの時代にも存在した。行基の曾孫弟子やそのまた曾孫弟子を自認する僧侶が行なった仕事が、時間の流れのなかで行基の行為とされていったのかもしれないという。

毎年5月14日に行われる法会式は、浄土から二十五菩薩が中将姫を迎えに来る様子を劇化したもので、県の無形文化財に指定されているという。この時に使用する高さ1.5メートルほどの渡り通路の一部が、そのまま残っていて目にふれた。

境内の建物はよく管理され、屋根瓦は近年に葺き替えられていた。傷んだ梁や柱も新しい木材で補修してある。内部も仏様はじめ内陣荘嚴仏具も真新しい。

得生寺を後にして田辺市にある南方熊楠顕彰館に向かった。私は南方熊楠の名

前を知らず、初めて聞く人物であった。館内での説明を聞き概要がわかった。

熊楠（一八六七〜一九四一）は慶応3年に生まれ昭和16年75歳で亡くなった。父が和歌山の富裕な商人であったおかげで、熊楠は生涯職業を持たず生物学・民俗学の研究を続けることができた。又自然保護運動にも尽力し、神社合祀政策にも反対したと館内ガイドさんの解説があ



南方熊楠顕彰館

った。

幼時は神童と呼ばれた博覧強記の人で、帝大予備門に入るも中退し、渡米し大学や農学校に入るも中退を繰り返している。学生生活に求められる規律に従うことができないう性格であったのだろう。渡英して大英博物館で独習し、科学雑誌「ネイチャー」などに論文を掲載された。大正5年田辺町に移住した。海外の科学雑誌に百廿余の論文を掲載された研究者であったが、国内の研究職につかず孤高の人であったという。

この館は主に熊楠邸にあった書物や日記、資料、論文など二万五千点を収蔵している。

もと藩士の屋敷を分筆したという400坪の敷地に、隣接する屋敷は熊楠の住処であり研究所であった。居住当時の母屋のほかに書斎、土蔵、井戸上屋など補修し、見物できるようにしてある。井戸もあちこちにあり、なかでも井戸上屋のあるものは今もポンプを押せば水が出てきた。屋内の小道具等も今も生活しているように配置してあり、思わず自分の子供

の頃の生活のありさまが思い出された。

庭には楠の木、柿、みかん、それにあまり見かけないが、6月にうす紫の花が咲くというセンダンの木が植えてある。落葉樹が多く新芽がふく前で上空がよく見通せる。

帰路高速道路に入ると途中7km渋滞しています、とガイドさんが言う。

堺に着くのが遅くなりそうだ。しばらく低速で走ったが事故があったみたいで、それを過ぎると通常走行に戻り予定より早く三国ヶ丘に帰って来た。すっかり天気も良くなり西空は明るくなっていった。振り返ると傘をさしての移動も少なく楽しい一日でした。計画した役員さん、ありがとうございます。

史跡巡り参加者名

岡崎形成・川口勝・佐藤盛夫・仙波恒民・谷口規容子・富田房子・鳥居俊作・中野博之・中野昌人・西井幹雄・東野信吾・古川美喜子・神野孝代・前田収・牧野みづほ他1名・松井郁子・宮本和・若井敏明・和田廣三・吉田靖雄

終戦・敗戦七十年

事務局長 鳥居俊作

総会後の講演は四年連続で担当することになった。本年は敗戦七十年の節目の年で、十年前岸和田の老人大学で、敗戦六十年を講演それを捕捉し、追編集したものであります

岸和田に戦前昭和十八年・三十五年に文部大臣二人が誕生、先に最後の岸和田藩主岡部長職氏の長男、岡部長景氏が時の首相東条英機氏に指名され、学徒出陣に明治神宮で激励演説をしていたので、終戦後B級戦犯に囚われ二年余服役を経験、後の一人は戦前に海軍政務次官を経験した松田竹千代氏も戦後追放され、6年余失職した。この松田氏は山本五十六氏、米内光政氏との三人は三国同盟反対で押し切った。又開戦前には、後の総理大臣をつとめた三木武夫氏・昭和の初期に南カルフォルニア大学に、大正時代にプリンストン大学に留学した神戸生協の創始者として活躍し、各地の生協の創設に活躍した賀川豊彦氏、自身

がクリスチャンとして生活困窮者を救った。世界各地でキリスト教布教者として、ノーベル平和賞の候補に二度推薦されたが、自身の著作「死線を越えて」の印税を労働運動や社会主義運動の支援に使ったことを理由の一つに、時の政府から除外された。

前述の松田竹千代氏は日露戦争前の明治三十五年に16歳で単身渡米、苦学を重ねニューヨーク大学に学んだ。帰国後、大正時代（13年5月第15回）に衆議院選挙に出馬したが、初挑戦は惜敗、応援してくれる運動の方が選挙権を行使できなかった、4年後の昭和3年の普通選挙（財産の制限を解除）最初の惜敗もありましたが、最高点で初当選、昭和30年、第二次鳩山内閣で郵政大臣に抜擢され、第二次岸内閣で文部大臣に就任、昭和43年に衆議院議長に推挙された。

二人の政治家（三木・松田）と一人の社会事業家（賀川）アメリカの産業と豊富な資源それに技術大国、こんな国と戦争を始

めたならば、無謀で対米戦争戦うべからずと、三木・賀川・松田の三人は、各地で演説会を展開した。この話は松田竹千代氏より生前聞いていたし、書物も見たことがあるが国会図書館でも調べたが、未だに解からずじまい。

陸軍を中心とした、交戦推進勢力が米国の生産を考慮しない軍人が開戦に突き進んだ。奇襲の真珠湾攻撃と当初の東南アジアの進出は、予想外に早期に制服でき、初期の米国は復興に3〜4年は掛かると日本軍は読んでいたが、真珠湾攻撃から132日後の昭和17年4月18日、日本初空襲、東京に攻撃を受けた、日本軍は米国の工業生産力を軽視していたため、大誤算に衝撃を受けるのだった。

作戦において、特に暗号を解読され、その作戦は米軍につつぬけ状態、反省と珊瑚海海戦の、どのように展開してどうなったかを分析しなかった日本軍、17年6月5〜6日、ミッドウエーの大敗北、南雲中将（のち大将）、真珠湾では活躍したが、航空

母艦を撃ちもらしているにもかかわらず、

早期に退却した、自分の率いる艦隊を、いかに早く無事に連れ戻すことだけが主眼

であった。敵空母を撃ちもらした結果、米

国航空艦隊の反撃にあう、ミッドウエーでは南雲中将は、旗艦「赤城」で作戦参謀長、

草鹿龍之介少将、作戦参謀、源田実中佐、真

珠湾攻撃以来のスタッフである。結果は南

雲中将の度重なる兵装転換が機動部隊の

壊滅に繋がった。飛龍艦長の山口多門はこ

れを危惧し、換装せずに、早く飛び出せと、

南雲に進言したが受け入れずに「鉄砲屋」

南雲は兵装に凝り、大敗北に繋がった。

ミッドウエー海戦を潮目に日本軍は防戦

一方に追いやられていく。

ここで、敗戦・終戦を望むべきであった。

参考文献 歴史と旅・実録太平洋戦争

日本陸海軍のリーダー総覧

歴史読本・大東亜戦争

別冊宝島・太平洋戦争の常識
その他参考

五月二十四日

平成二十七年年度会員総会開催される

五月二十四日、堺市駅のサンスクエ

アで、平成二十七年年度会員総会が開か

れました。

吉田靖雄会長の挨拶に続き、中井国

芳氏を議長に選び、①平成二十六年

度事業報告が鳥居俊作事務局長から、②

同年度収支決算報告が東野信吾会計

委員から、③監査報告が操田邦男監事

からなされました。ついで④二十七年

度事業案の提案が鳥居事務局長から、

⑤同年度予算案の提案が東野会計委

員からなされ、⑥役員交代について

とともに、いずれも賛成多数で承認さ

れました。

なお昨年度検討課題とした会員名

簿については、配布しないこととする

という報告がなされ、承認を得ました。

(吉田靖雄)

平成26年度収支決算書

(収入の部)

科目	金額	摘要
会費	249,000円	83名(過年度分含む)
参加料	279,000円	史跡めぐり 11月 144,000円 4月 135,000円
雑収入	104,970円	資料代 24,000円 11月 9,000円 1月 15,000円 寄付 10,000円 文団連 40,926円 堺観光協会 30,000円 利息 44円
収入合計	632,970円	
前年度繰越金	518,752円	
合計	1,151,722円	

(支出の部)

科目	金額	摘要
会場費	16,210円	会場使用料
通信費	33,762円	郵送費
事務費	45,705円	チラシ他
会報費	73,980円	5月 35,100円 10月 38,880円
資料代	136,080円	11月 75,600円 1月 60,480円
行事費	349,701円	11月 168,670円 4月 181,031円
雑費	71,745円	振替料 11,050円 文団連会費 4,000円 茶話会 6,695円 講師御礼 50,000円
支出合計	727,183円	
次年度繰越額	424,539円	
合計	1,151,722円	

銀行預金 344,344円
現金 80,195円
合計 424,539円

会計監査の結果

適正と認めます。
操田邦男

平成26年度事業(行事)報告

年月	行事	場所・行き先	備考
26. 4.20	役員会	サンスクエア堺	会員総会の準備
26. 5.25	会員総会	サンスクエア堺	平成25年度事業報告 同年度会計決算報告 会計監査報告 26年度事業計画案 同年度会計予算案
		記念講演	事務局長 鳥居俊作 行基を尊崇した俊樂坊重源
26. 6. 22	役員会	サンスクエア堺	11月2日堺文団連公開 講演会の準備
26. 9.27	役員会	サンスクエア堺	秋の史跡めぐりの準備
26.11.2	講演会	東文化会館	講師 吉田靖雄 会長 森 明彦 副会長 名古屋市立大学 吉田一彦 教授
26.11. 22	史跡めぐり	堺市役所展望台・住吉大社・昼食・あなご膳 土塔・狭山池博物館	
26.12.16	役員会	サンスクエア堺	1月学習会の準備
27. 1.25	学習会	東文化会館	講師 吉田靖雄 会長 若井敏明 副会長
27.2.23	役員会	サンスクエア堺	史跡めぐりの準備
27.4. 5	史跡めぐり		中野酒造工場見学・試飲 南方熊楠邸・南方熊楠顕彰館

会報発行 26. 9. 40号発行

平成27年度収支予算案

(収入の部)

科 目	金 額	摘 要
会 費	225,000円	3,000円×75名
参加料	360,000円	史跡めぐり 6,000円×30名×2回
雑収入	50,000円	資料代・利息
前年度繰越金	424,539円	
合 計	1,059,539円	

(支出の部)

科 目	金 額	摘 要
会場費	30,000円	会場使用料
通信費	40,000円	郵送費
事務費	50,000円	事務用品、レジメ
会報費	40,000円	1 回
資料代	80,000円	1 回
行事費	400,000円	史跡めぐり2回
雑費	100,000円	振替手数料・茶話会等
支出合計	740,000円	
予備費	319,539円	
合 計	1,059,539円	

平成27年度事業計画案

行 事	予 定 ・ 備 考
1 総 会 1 回	26年度事業報告・同年度会計報告 監査報告 27年度行事計画案・会計予算案 役員交替案 記念講演 事務局長 鳥居俊作 終戦・敗戦70年 あれで良かったの?反省している?
2 役員会	4月・6月・9月・11月・12月 平成28年2月
公開講演会 1 回	堺市民祭参加 堺文団連 シンポジウム
学習会	平成28年1月
史跡めぐり2回	11月・28年3月

編集後記

何十年ぶりでしょうか、デモに行ってきました。学生時代のエネルギーを発散して汗だくのデモではなく、おとなしく整然と歩くデモに最初は戸惑いを覚えましたが、女性達の自由参加のところに入らせていただいて、こういうのもまあいいもんだとその内思うようになりました。デモのあとはソバ屋で一人日本酒を傾けながら、原稿をいかにまとめるかなど割とまじめな人間であると一人勝手に思っています。

何年ぶりでしょうか。職場から帰ってきて、クーラーをつけていてもムワツとした熱気に息苦しさを覚えることがあまり無い夏は。秋の訪れがあることがこんなにすばらしいことだったのかと喜びをかみしめています。ただ野菜の高いのだけは困ったことです。

前号に続いての編集担当となりました。本来は、春が担当の若井さんの名文の編集後記となるはずでしたが、昨年十一月の史跡巡りの原稿と一月学習会の記録の原稿が出なかつたため春季の会報を編集

できず、一年ぶりの発行となりました。手際、お詫び申し上げます。

(森明彦)



平成27年度役員

会長	吉田靖雄
副会長	森明彦
副会長	若井敏明
事務局長	鳥居俊作
会計	東野信吾
監事	仙波恒民
幹事	吉良隆司
幹事	中井国芳
幹事	牧野みずほ



大野寺土塔の復原後
(堺市土塔町 53.1m×8.4m)



大野寺土塔出土「神亀四年(727)」銘軒丸瓦
(『史跡土塔一文字瓦聚成』)